

国土審議会第15回北海道開発分科会における委員意見の概要

【新たな計画策定について】

- 北海道にとって、目下の課題は人口減少問題。新たな計画の検討はタイムリー。
- リアリティのある計画をつくっていくためには危機感が必要。人口減少等に北海道はより危機感を持つことが必要。
- 北海道の強みにてこ入れをし、日本経済に役立つ北海道の実現にベクトルを定め計画を策定すべき。
- 北海道のすばらしさは開拓者魂である。その高い精神文化能力を引き上げるためにどう考えていくかが勝負。

【人口減少に対応した地域づくり・人づくり】

- 本州のコンパクト+ネットワークとは異なる北海道独自の地域の作り方があって良い。
- 地域の雇用、医療、教育の問題、住む環境の充実確保の検討が現実的なアプローチと考える。
- 北海道新幹線の5年前倒しの効果を道内に波及させるためには、札幌市の都市機能を高めるとともに道内高速道路網の整備が必要。
- 情報過疎の現状がある。情報網の整備が必要。
- 地域のクリエイティビティを高める人材を育成する地域独自の戦略の明確化が重要。
- 「国土のグランドデザイン2050」の基本理念は対流。もう一つは共助社会。普通の人々が公共を担うことが重要。

【諸産業の振興】

- 食、観光及び農業の3点セットを融合させて考えることが必要。
- 他の地域が苦手とする寒さ・雪・氷は北海道の魅力、大きな資源。観光、スポーツ、食文化も北海道の魅力。
- 訪日外国人向けの多言語表記など、お客様の立場に立ったおもてなしが必要。
- アイヌ文化をオリンピック・パラリンピック東京大会の開会式で発信すると良い。
- 農業は雇用・生活を支え、北海道の魅力でもある。一次産業を守っていくことが必要。
- 農業の大規模化が進んでも地域の空洞化を招いてしまう。産業面と地域面のバランスを考えることが必要。
- 地域産業への新たな仕組みが必要（既存の経営資源を活かしつつ地域外の資源と融合させる北海道らしいイノベーション、道内の各大学の特色を活かした産業化など）。
- トラック運転手の不足、鉄道貨物による輸送など、産業を支える北海道の物流には課題があり、全体像を協議する場が必要。
- 物流の観点からは港湾の機能強化が必要。

【強靱な国土】

- 国土を守る観点からのインフラ整備は今後も必要。
- 自然エネルギーを水素に変換して備蓄するシステムを整えるなど、北海道で生みだせるエネルギーの活用について検討が必要。